

二番茶総評

令和5年7月3日

本年の県内産の二番茶は、昨年より4日早く5月下旬より生産が開始され10日後には各産地が出揃いました。梅雨入りが平年より早い5月29日となり、5月下旬から6月上旬は曇りや雨の日が多くなり夜温が低く推移したため、生育が抑えられ芽伸びが進みませんでした。また、芽数が少なく生産量は少なくなると予想されました。早場所や中場所では前半、芽伸びが緩やかで反収が膨らみませんでした。中盤以降は増加しました。中山間地や遅場所では、反収が膨らみませんでした。一番茶の価格が昨年より高値で終了したことから一定の需要が見込まれ、ドリンク原料・リーフともに品質重視の生産となりました。

取引状況は、当初来場する買手が増えず様子見が続きました。リーフ使用の買手の仕入れ意欲が弱く選択買い・必要買いの姿勢がみられ仕入れ量を抑える買手もみられました。

ドリンク原料は、数量を確保する動きがみられ緩やかな下げはあったものの比較的堅調な取引が続き、平均単価は昨年並みとなりました。芽数が少なく前半の緩慢な芽伸びや後半に発生した病虫害により遅場所を中心に摘採を中止する茶園があり、中山間地や東部地区では生産量が少なくなりました。取扱数量は、昨年より20%ほど少なくなりました。